

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、ありたま圏域） 第1回会議 議事録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和5年8月30日（水）10時00分から11時40分まで |
| 参加者 | 委員：7人 事務局：1人 その他：11人（高齢者福祉課：2人、東区長寿保険課3人、積志協働センター1人、包括支援センターありたま：1人、浜松市社協：3人） |
| 場 所 | 積志協働センター 302 講座室 |
| 内 容 | <p>【開会】 会長より開会の挨拶</p> <p>【昨年度の振り返り及び今年度の進め方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりについて、協議体で利用方法や周知について話し合った結果、自治会として活用されるきっかけとなった。また、住民主体サービス補助金については検討を重ね今年度、漆島こども農園サロンの補助金申請をすることができた。 ・今年度は、包括や他の関係機関等と連携を取りながらこの地域にあった情報提供を行っていき、新しい居場所やサロンとシニアクラブの関係、家事支援活動中の困り事の情報共有を行う。 <p>【住民主体サービス事業費補助金交付実績について（高齢者福祉課）】</p> <p>昨年から住民主体サービス補助金を考えていただき、今年度は漆島こども農園の申請があったということで、今までの補助金申請の実績を簡単に説明させていただく。この事業は平成29年度から始まり、現在までに11団体が申請をしている。令和5年度の申請については5団体です。資料を見てもらうと、初年度は2団体143,300円、徐々に交付金額が増え、令和5年度の見込みは1,500,000円。団体によって人数の関係で補助金額が変わっているので金額にバラつきがある。申請している団体については、最大限に補助金を活用してもらっている。</p> <p>申請する時に複雑な所があって難しいと思うが、行政としては伴走型でやっていきたいと思っている。もし活用したいということがあれば気軽に相談してもらい、一つでも多くの団体に活用してもらいたい。</p> <p><u>委員からの質問</u></p> <p>質問：途中で補助金がなくなったサロンがあるか。理由について？</p> <p>回答：そうです。だんだんと活動も縮小となり、コロナ流行し辞めることになった。下の3団体は活動を続けているが、今は市社協の地区社協補助金で活動している。</p> <p>質問：住民主体サービス補助金と地区社協補助金を両方もらうことは可能か。</p> |

回答：可能。使う経費が別であればよい。住民主体サービス補助金は実績報告後に支払う。

質問：年度途中からでも住民主体サービス補助金の申請ができるか。

回答：可能。

【協議事項】

①住民主体サービス補助金制度の利用にあたっての報告

事務局より説明

- ・サロンの団体の選定から申請に至るまで長い時間かかった。今後も他の団体が申請する場合、SCとして感じたことがある。まず、申請する前に補助金の使う科目（消耗品や通信運搬費等を明確にしておくこと。申請団体の利用者に対して、基本チェックリストやケアプラン作成の前に制度に対しての十分な説明が必要である。

サロン代表者より

- ・東日本大震災後、何かやろうということで、当時、私は自治会長をやっており、地域に使っていない畑があり、シニアクラブ寿会に声をかけて何かやろうということで12年前に始まった。今回住民主体サービス補助金の申請をしようということになった。メンバーは15人、毎週日曜日9時から11時30分、時には地域から差し入れがあり、楽しくやれている。

住民主体サービス補助金については、基本チェックリストから始まるのですが、チェックリストが終了し、利用対象者には包括から面談に入るが、本人はわかっているが家族が分かっていないため、家族から「なぜ、こんなことをしないといけないのか」と問い合わせがあったことが大変であった。家族にも説明や理解がないと進まないと思った。

包括より

- ・成果としては、漆島こども農園サロンが住民主体サービスとして位置付けることができた。しかし、住民主体サービスとして位置付けるのがゴールではない。あくまでも手段である。地域の健康状態を高めるものであり、1団体だけやってもあまり意味がない。もっと大きい枠で考えるのが必要。補助金も少ないしこれから始めようとしているサロンの意欲につながらない。制度が複雑すぎる。事業対象者になる人とならない人がいる。しかも、事業対象者は包括と契約し個人情報や渡さないといけないので家族が不安になる。事業対象者とそうでない人の説明が全くなく受けるサービスは同じ、制度的に不備がある。

農園サロンも居場所についても元々は自治会から出たものであり、既存のものに乗ったという感じになった。今後は、このような活動がどこ

まで広げていけるかが本当の評価の分かれ道だと思う。

委員からの質問（住民主体サービス補助金に関すること）

質問：実績報告の際に領収書も出すのか？補助金はいつもらえるのか。

回答：かかった経費の領収書（レシート）等3月の実績報告書との一緒に提出してもらい、実績に応じて5月に補助金が振り込まれる。

質問：基本チェックリストは、対象となる人の条件というものはあるのか

回答：ある。基本的にサロンに来ている人を調査すると5割ぐらい該当する。

質問：サロンでウォーキングをするためにストックを買うのに補助の対象となるのか

回答：個人所有でなく、団体所有で1ポールが2万円以内なら対象。

質問：名前に漆島こども農園となっているが子供とはどういうことか。

回答：始まった当初は、地域に子供たちが100人位いて手伝いに来ていた。だんだんと子供が減り、子供会が難色を示したり、今は3世代で芋ほり体験をしている。立ち上げた時のスローガンが「体験こそ宝」長年培った経験を活かし、子供に受け継いでいこうという思いがあり始めた。

委員からの意見

- ・自分の地域のも耕作放棄地が増えており、環境整備も兼ねて何とかしないといけないと思っている。農園サロンを例として参考とさせていただきたい。
- ・今は農業をやる人が少ない。シニアクラブは男性が少ない。

②マップで見るサロン・シニアクラブの意見交換

意見交換

事務局：シニアクラブが19か所、サロンが13か所、新しいサロンはどこにできるか。

委員：帰一会サロンが万斛庄屋公園、有玉台サロンが有玉団地に今度できる

会長：欠下平にもう一つサロンが欠下平の下にできる。

事務局：積志地区内でウォーキング（歩くコース）場所があるか。

委員：積志地区内では歩いていない。浜北の森林公園に行って歩いている。

事務局：シニアクラブの活動はどんなものがあるか。

委員：シニアクラブ全体では、ウォークラリー、ペタン大会、また、フラワーパーク等に日帰り旅行に行っている。東区では竜西荘で芸能大会をやっていたが、最近は、コロナでやれていない。

包括：笠井地区との境、大瀬町と大島町には拠点が少ないのではないか。

委員：シニアクラブに「住民参加型サロン」を増やしてと声をかければ増えると思うが、シニアクラブの人数が減ってしまうので積極的には声か

けていない。予算がたくさんあるから宣伝してほしいと言われれば宣伝する。声をかければすぐできると思う。

委員：できるだけ家にいるお年寄りを外に出そうとしているがなかなか外にできない。

会長：これからサロンを始める所は、必ず月1回開催しないといけないわけではなく、例えば、年間5回でも構わないと思う。

委員：つみしサロンが出来上がった経緯は、以前から火曜金曜家事支援の電話受付の為にいきいきプラザを開けておくと、人が集まってきたため、今年からサロンにした。最近は本当に人が来るようになった。毎回、話す内容は違っていて、世間話もあれば、地区社協の事業の話、積志地区の歴史の話もしたりする。

包括：サロンやシニアクラブがないエリアに声かるのは可能か。

委員：声をかけるのであれば、地区社協からよりも自治会からの方がよいと思う。

委員：大瀬町にある大瀬モータースはこども図書館になっている。大瀬町はコロナ前まで、大瀬東公会堂で有志の会が集まり、活動していたが、今は休止状態。もう1度、復活させたいと思っている。

包括：住民主体サービスが拡充していくことは素晴らしいことだと思いますが、当事者が負担に思っていることもある。特に包括や社協の立場の者が勧めるのは気を付けないといけない。住民が自発的にやりたいということが大切。

事務局：サロンや居場所は強制的にやるものではない。本日、実際のシニアクラブの活動を聞いて、とても活発に活動されていることを知りました。車の運転ができて、比較的自分で何でもできる人はシニアクラブにも参加できるけれど、自分で自由が利かなくなり、そこに参加できなくなった時に徒歩圏内に「居場所」のようなものがあつたらいいなと思った。今回、マップを使ってシニアクラブやサロンの見えるかして、一通り地域を把握できたかなと思っている。今後は、民生委員さんからの情報や家事支援活動のことも聞いていきたいと考えている。マップについては、話し合うきっかけの一つとしてこれからも活用していきたい。

③情報提供 えんしんライフサポートプラザについて（c s w）

- ・C S Wより積志郵便局の南側にできたえんしんのライフサポートプラザについて情報提供をした。

| | |
|----------------|---|
| | <p>令和5年度第2回協議体会議について</p> <p>開催日時：<u>令和5年11月29日（水）10:00開催予定</u></p> <p>場 所：<u>積志協働センター 2階 201会議室</u></p> <p>【閉会】</p> |
| <p>今後の見通し等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい居場所づくりについては、毎年、2,3カ所ずつ増えてきている。本圏域においては住民たちが知恵をだし合い「地域のたすけあい」が形となってできている。 さらに地域活動を活発にさせていくには民生委員の意見や、家事支援活動者の声を聞きとり、地域活動へとつなげていく必要がある。そのためには、地区社協等の連携を取り情報収集を進めていく。 |